

平成 22 年 5 月 6 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長  
里 見 治  
( コード番号 6460 東証第一部 )  
問 合 せ 先 グループ代表室長兼グループコミュニケーション室長  
上 田 晃 一 郎  
( 電話番号 03-6215-9955 )

当社子会社（株式会社セガトイズ）の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社である株式会社セガトイズは、平成 21 年 10 月 28 日付にて発表いたしました平成 22 年 3 月期の通期業績予想の修正について、別添のとおり発表いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本件による当社業績への影響は軽微であり、当社業績予想の変更はございません。

《添付資料：セガトイズ開示資料「業績予想の修正に関するお知らせ」》

以上

各位

上場会社名 株式会社 セガトイズ  
 代表者 代表取締役社長 鈴木 義治  
 (コード番号 7842)  
 問合せ先責任者 取締役副社長 経営統括本部長 菅野 暁  
 (TEL 03-5822-6244)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ平成21年10月28日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,000	△180	△200	△1,500	△69.65
今回発表予想(B)	17,139	△395	△412	△1,666	△77.40
増減額(B-A)	△861	△215	△212	△166	
増減率(%)	△4.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	18,947	△87	△98	△114	△5.30

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,000	20	10	△1,650	△76.62
今回発表予想(B)	16,355	△25	△96	△1,854	△86.09
増減額(B-A)	△645	△45	△106	△204	
増減率(%)	△3.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	17,371	81	100	27	1.30

修正の理由

#### 1. 連結業績予想

連結売上高につきましては、海外販売は欧米市場において男児キャラクター「爆丸」が好調に推移し概ね計画通りの見込みです。一方、国内販売につきましては、第4四半期において、連結子会社の株式会社タイヨーの解散、今後不採算が見込まれる或いは収益性に乏しいと判断される事業及び製品の精査を行い、事業及び製品の絞り込みを徹底的に行いました。しかしながら、製品の絞り込みによる売上高の減少や、折からの消費低迷による国内市場の冷え込みの影響などにより低調に推移しました。また、平成23年3月期における当社の戦略事業である「爆丸2」や「ズーズーベツ」などの新製品の発売を当第4四半期に前倒して開始しましたが、国内販売全体の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。以上の結果、売上高は前回発表値を861百万円下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、国内事業の収益性の見直しに伴い、広告宣伝費や経費などの販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、売上高減少による影響が大きく、また、「爆丸2」の発売前倒しに伴い広告宣伝費の先行投資を行ったことなどにより、営業損失、経常損失、当期純損失が前回発表値に比べ増加する見込みです。

以上の結果、売上高17,139百万円(前回発表値と比較して861百万円の減少)、営業損失395百万円(前回発表値と比較して215百万円の増加)、経常損失412百万円(前回発表値と比較して212百万円の増加)、当期純損失1,666百万円(前回発表値と比較して166百万円の増加)を見込みます。

#### 2. 個別業績予想

個別業績につきましては、海外販売は欧米市場において男児キャラクター「爆丸」が好調に推移し概ね計画通りの見込みです。一方、国内販売につきましては、第4四半期において、今後不採算が見込まれる或いは収益性に乏しいと判断される事業及び製品の精査を行い、収益性の見込まれる事業及び製品への絞り込みを徹底的に行っております。しかしながら、製品の絞り込みによる売上高の減少や、折からの消費低迷による国内市場の冷え込みの影響などにより低調に推移しました。また、平成23年3月期における当社の戦略事業である「爆丸2」や「ズーズーベツ」などの新製品の発売を当第4四半期に前倒して開始しましたが、国内販売全体の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。以上の結果、売上高は前回発表値を645百万円下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、国内事業の収益性の見直しに伴い、広告宣伝費や経費などの販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、売上高減少による影響が大きく、営業損失、経常損失、当期純損失が前回発表値に比べ増加する見込みです。

以上の結果、売上高16,355百万円(前回発表値と比較して645百万円の減少)、営業損失25百万円(前回発表値と比較して45百万円の増加)、経常損失96百万円(前回発表値と比較して106百万円の増加)、当期純損失1,854百万円(前回発表値と比較して204百万円の増加)を見込みます。

3. 平成22年4月15日に発表致しました「当社元従業員による不正取引に関するお知らせ」に関する連結及び個別業績に与える影響について

平成22年5月6日に開示致しました「当社元従業員の関与した不正取引に関する調査の中間報告について」に記載しております通り、弁護士及び公認会計士からなる外部調査委員会による中間報告を受けて、連結及び個別業績に与える影響は以下の通りとしております。

- ・平成21年3月期以前の業績につきましては、本件による影響は無い見通しです。
- ・平成22年3月期の業績につきましては、本不正取引により架空の売掛債権(約420百万円)を取得したとする者からの民事上の請求に対する支払いが発生する可能性があることから、偶発債務としての注記を予定しております。
- ・平成23年3月期以降の業績につきましては、今後、本不正取引により架空の売掛債権(約420百万円)を取得したとする者からの民事上の請求に対する支払いが発生した場合には変動する可能性があります。

本件につきましては引き続き鋭意調査を進め、最終報告については結果が分かり次第、速やかに開示を行う予定です。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上